

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100097		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	宮崎市大塚台西3丁目23番地2		
自己評価作成日	平成30年12月8日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100097-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成31年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は閑静な住宅地の中に位置し地域の防災訓練・清掃等の自治会活動に積極的に参加している。近くには児童館・保育園・小学校・コミュニティセンターがあり、数々のイベント開催時には様々な方の慰問や協力等を受けたり、オレンジカフェに参加し地域の交流を深めている。施設内では身体活動が低下しないよう、毎朝のテレビ体操や公園への散歩、室内歩行、お買物などを取り入れている。医療面では全員が往診体制をとり、医師と連絡を取りながら介護にあたっている。皆が楽しみにしている食事については、個々の好みや健康状態に配慮しながら旬の食材を用いた美味しい食事を提供している。職員はより良い介護を目指して様々な研修に参加し質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅街の中にあり、地域との付き合いも日常的に行われている。児童館や保育園、老人クラブとの交流も定期的に行われ、災害時の協力体制の構築にも取り組んでいる。管理や職員は外部の研修会に参加しケアに生かせるよう取り組んでいる。運営推進会議では地域の構成員、家族から意見が出され、運営に生かすよう努めている。寄り添うケアに力を入れ、利用者とのコミュニケーションを図り、利用者が温かな雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中でその人らしく地域と関わりを持ちながらゆっくりとして生活を送れるように」と理念を掲げ職員会議の時は声を出して読み意識確認をして寄り添うケアを実施している。	毎月の職員会議で唱和し意識付けを行っている。職員で話し合い理念を掲げ、寄り添うケアが実践されるよう管理者、職員が取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し役員の方は運営推進委員会のメンバーになって頂いている。市民一斉清掃や自治会主催の防災訓練には必ず参加し地域の方と交流している。	自治会に加入し地域の消防訓練に利用者と共に参加している。児童館や保育園、老人クラブとの交流を日常的に行い、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人の方にホールを開放しカラオケ大会や茶話会をして談笑の中で認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、地域住民代表、家族代表、地域包括支援センター、利用者の参加で年6回行っている。利用者のサービス状況や空所報告をし運動会や花見の行事には一緒に参加して頂いている。	2か月ごとに運営推進会議でホームの近況報告や意見交換を行っている。行事を行う際のボランティアや火災予防の助言を受けているが、それらが議事録に記載されていない。	運営推進会議では活発な意見交換が行われているが議事録への記載が無いため、今後議事録への記載が行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事は市の担当者に電話したり、直接出向いて、相談にのってもらっている。地域包括支援センターの方には運営推進委員会や、オレンジカフェの折に、相談したり、サービスの取組等を伝えたりしている。	代表者が市と連絡を取り、管理者は地域包括支援センターとその都度連絡を取り合っている。介護認定調査や後見制度についての相談を行うなど協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修会等、積極的に参加し職員の研修に生かしている。玄関の施錠は夜間以外はしていない。身体拘束廃止に関する指針を作り年4回身体拘束適正化検討委員会を計画している。	法人内で身体拘束適正化委員会が行われ管理者、職員は外部研修にも参加している。その都度話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会の時に「禁句と言われる言葉」等を話し合い自己評価している。身体的虐待、精神的虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者さんがいらっしやるので全職員が成年後見制度について理解するように勉強会を開き権利を守る介護を活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、気軽にわかりやすく質疑応答に努め、理解、納得してもらい契約に至るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には2～3人の家族に交替で参加をお願いし意見や要望を出してもらっている。面会時には、必ず、管理者も顔を出し日頃の生活の様子を説明し要望に耳を傾け運営に反映させている。	面会時や行事ごとに日常の様子の説明や報告を行なっている。家族からの花見についての助言を実践するなど運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りに目を通し問題点があったらその都度話し合い、月1回の職員会議では皆で意見や試行の成果や周知徹底することなど話し合い運営に反映させている。	毎月の職員会議時に意見を聞くようにしている。入浴時に職員を増員するなど職員の意見を運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意欲や継続、やりがいが持てるように労務関係を整え、希望・要望もできる限りそれに沿えるように努めている。有休希望も沿い、残業等も不服なく働ける環境を実現していると自負している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の役職に沿う研修と、職員に必要と思われる、身に着けて欲しいと思われる研修は必須で受けてもらうように管理者と話し合い決定している。働きながらも初任者研修等も受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する研修等に管理者と職員が出席し、他の事業所との交流や勉強会等の活動を通じ、情報交換を行い、当ホームの介護の質の向上に役立てている。他のグループホームと合同で行事を行う事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からの情報の収集に努め本人が安心できるようにサービス導入段階を信頼関係が保てるように希望・要望を伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話がしやすい環境を作り何でも気軽に聞いたり要望を言ったり出来る様に親しみのある関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を聞き「必要な支援は何か」を見極める様に努力し適切なサービスができるように情報収集し支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に本人の気持ちに寄り添い理解し本人の希望を受け入れられるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から職員へ、職員から家族へ遠慮なく意見や連絡など密に行えるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	退職した同僚が入居者を紹介してくれたりホームの行事の時には参加も呼びかけている。面会時間を制限せずサービス会議等は家族の日時に合わせて対応している。	お盆や正月には家族の支援にて外出したり、馴染みの店に買い物に出かけたり、また馴染みの人達の来訪もあり、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルは全員が向かい合って座り、常にお互いの顔が見えるように配置している。お互い話しかけ合い、また、スタッフも中に入り声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会に行ったり、近況を電話や葉書で連絡したりして確認している。家族も近くに来たときには立ち寄ってくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きな事、今までにしてきた事を把握し本人の動きや生活動作で意向を見だし無理なく出来るように支援している。	家族からの情報や生活歴、日常の言動から思いや意向をくみ取るようにし本人本位に無理なく出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの段階で本人の生き方、暮らし方、馴染みの物等、家族に聞き経過を把握して今後の暮らしに役立てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務に入る前に、申し送りを受け、記録を確認している。変化のあった利用者については、いつ頃からの変化か？職員はどう対応していくのかを職員同士で話し合っ業務にのぞんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月の職員会で話し合い確認をとる。サービス会議は家族の日に合わせて日曜や夜間に行う場合もある。本人、家族、看護師、担当者も参加する。	担当制で毎月モニタリングを行っている。家族には希望や意向を電話連絡や来訪時に聞くよう努めている。サービス会議も開催し3か月ごとの見直しを行い現状に即した介護計画を作成するよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤・日勤の記録は赤・黒で色分けし、個別の毎日の処置等についてはチェックで確認をし漏れがないようにして実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の体調の変化に合わせ、柔軟な対応で、その人のニーズに添えるように、運動会をしたり、お買物に行ったりと支援している。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「野の花」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の児童館や保育所から行事参加の招待を受け子供たちと交流している。自治会主催の食事会、一斉清掃にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月1回行っているが受診に際しては本人、家族の意向を尊重して、かかりつけ医師、看護師、職員は詳細な情報を提供し安心して受診ができるようにしている。他に歯科訪問診療も取り入れている。	歯科訪問診療は月4回、協力医の訪問診療は毎月行われている。認知症専門医の受診等は家族支援にて行われ、かかりつけ医の受診も定期的に行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見・早期治療を念頭に介護職は日常の利用者の身体に関する変化を記録と共に迅速に、かつ確実に報告を受けた看護師は必要に応じて、かかりつけ医に伝え指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院に至るまでの経過、日常生活の状況、医療内容等について、情報を提供し入院中は看護師・ケアマネジャーの面会を通して入院時の経過を把握して退院後の生活がスムーズにいこう病院関係者と情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と家族との間で終末期の医療についての話が行われているがサービス会議等でも現在の状態、今後、予想される変化にホームで対応出来る事、難しいことを話している。家族の思いを最優先に考えて、その都度、家族・職員間で協力している。	ホームとしては看取りを行なう方針である。重度化や終末期に向けた説明は入居時に行い、家族とはその都度話し合いを行っている。ホーム、協力医、家族で協力関係を築き支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の現在の身体状況から今後、予想される状態の変化や事故発生時の対応について職員会議や日常の勤務の中で情報を共有しながら話し合いをしている。又、職員は応急手当の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域住民の協力も得て夜間を想定した避難訓練を行っている。同時に消防士の方に地震の時の避難方法について」の講話も聴き職員が利用者を無事避難できる方法を身につけている。常に飲料水や食料品等必要量の備蓄に努めている。	年2回の防災訓練を実施し、地域の人達も参加している。地域の防災訓練にも利用者と共に参加し、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のそばに行き小さい声でトイレの声掛けをしている。失禁時も他の入居者に気づかれないよう手早く対応している。誇りやプライドを維持していることを常に意識しながら支援している。	声掛けには十分に気をつけている。排せつ時や入浴時、更衣の際にも人格を尊重した配慮を常に意識し支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時や15時のおやつの時間に一緒にお茶を飲みながら談笑。本人の思いや希望を傾聴し、できるだけ思いが叶うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて、日々を過ごされる。昼食後は居室で1～2時間休まれたりホールに出てこれカラオケを楽しまれたりされる。天気の良い日はスタッフと近くの公園を散歩したりされる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分の着たい服をスタッフと一緒に選んでいる。髪も馴染みの美容師さんに来て頂きカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時には入居者からのリクエストに応じている。誕生日の時にはお寿司の希望が多い。季節に合った料理等心がけている。食後にはスタッフと一緒にお盆拭きやテーブル拭き等もして頂く。	利用者と職員と一緒に食事の準備をしたり、また旬の食材を使用した献立にするなど食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場は水分補給のため、10時に清涼飲料水でバランス良くし、食事には便秘予防のため繊維質の物を食べて頂いている。むせのある方にはとろみをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアをしている。自分でできる方は声掛け、見守り、介助が必要な人はスタッフと一緒にして頂く。週に1回土曜日に義歯を洗剤にて消毒する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握しプライバシーに配慮しながら自立に向けた支援を行っている。	排せつチェック表を活用し、排せつパターンを把握した声掛け誘導を行っている。日中はトイレでの排せつを利用者全員が行い、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心の食事をしている。毎日、体操やウォーキングを日課にして水分摂取に気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの体調や気分など配慮し気分よく入浴して頂けるように温度、言葉かけ水分補給など個々に沿った支援をしている。	夏は週3回、冬は週2回の入浴が行われている。希望があれば入浴日以外の日入浴も対応している、入浴を拒む利用者には清拭や足浴を行うなど、個々に沿った入浴を楽しむ支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時季に応じて冷暖房の調節をしたり、入床前の心の安定を図る等、安眠できるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の目的など、いつでも説明できるようにしている。又、誤薬防止の為、服薬時、日付、名前を読み上げる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの好きな事、趣味など取り入れている。カラオケ・ゲームなど楽しむ時間を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日は、体調に合わせて散歩に出かける。桜の季節には、家族や地域ボランティアの協力を得て貸切バスにて利用者スタッフ全員で花見に行っている。月1回は希望者のお買い物とオレンジカフェに行き地域の人達と交流を深めている。	月1回はオレンジカフェや買い物に出掛け、時には、外食にも出掛けることがある。花見には利用者、職員全員で出かけたり、普段は近隣の公園を散歩したり、日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、お金を所持することで安心する利用者には財布の中に少しのお金を入れており買物の時、お菓子等を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を職員が代行してかける。家族の了解を得て不安が強い時や寂しがられている時に家族からかけてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事をしたり、日中過ごす事の多いホールにはお花を生けたり利用者さんの作品を掲示したり行事の写真を貼ったりして会話のきっかけになるように心がけている。家族の面会時には行事の時の様子等を説明している。	共用空間には行事の写真や利用者の作品などが飾られ、日当たりや空調に配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの壁際にソファを置いているが昼寝をしたり、独りで座っていたい時に利用している。利用者同士隣り合わせの席で会話をしたり編物等をする人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長線での生活ができるように今まで使用していた寝具、衣類、食器等を持参してもらっている。テレビやソファを備えている人もいる。	居室には位牌やテレビ、鏡台など使い慣れたものが持ち込まれている。ソファを備えている利用者もあり、それぞれが居心地良く過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立できる利用者さんは奥の居室、介助の必要な方や急変が予想される方はホールに面した居室になっており常にスタッフは安全に心がけている。		